

分野	専門分野	科目名 単位（時間）	看護管理 1 単位（30 時間）	授業 形態	講義・ 演習	開講 時期	3 年 前期												
講師名 所属	院内講師 嬉野医療センター 病院長（医師） 院内講師 嬉野医療センター 看護部長 認定看護管理者 院内講師 嬉野医療センター 副看護部長 院内講師 嬉野医療センター 教育担当看護師長 院外講師 社会医療法人祐愛会 織田病院 看護部長 看護管理者 教育主事 嬉野医療センター附属看護学校 教育主事 教員 嬉野医療センター附属看護学校 教員																		
授業概要	1. 看護管理は、看護を仕組みとしてとらえ、資源の有効利用により、よりよい看護を提供するためにはどうすればいいのかを追求していくこと、またチーム医療および多職種との協働のなかで、看護師としてのメンバーシップ、リーダーシップのあり方、組織における看護師の役割を理解し、病院の機能と看護サービスの管理（マネジメント）について学ぶ。 2. 看護専門職の責務として、自らの看護実践を看護研究としてまとめ、将来的なキャリアマネジメントについて考える。																		
科目目標	1. 地域における病院の役割と機能及び政策医療の特徴を理解できる 2. 地域における看護の役割と機能及び政策医療看護の特徴を理解できる 3. 組織における看護部門の役割・機能を理解できる 4. 患者に安全で安楽なサービスを提供するための看護マネジメントを理解できる 5. 看護専門職の人材マネジメントを理解できる																		
テキスト	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践〔1〕 看護管理 医学書院																		
参考文献	1. 系統看護学講座 基礎看護学〔1〕 看護学概論 医学書院（看護学概論テキスト） 2. 看護管理学 自律し協働する専門職の看護マネジメントスキル 南山堂 3. 系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院（情報科学・演習テキスト）																		
評価方法	評価は別紙「評価計画」参照 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">筆記試験</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">○</td> <td style="width: 25%;">レポート</td> <td style="width: 25%;"></td> <td style="width: 25%;">技術試験</td> <td style="width: 25%;"></td> </tr> <tr> <td>口頭試問</td> <td></td> <td>授業態度</td> <td></td> <td>出席状況</td> <td></td> </tr> </table>							筆記試験	○	レポート		技術試験		口頭試問		授業態度		出席状況	
筆記試験	○	レポート		技術試験															
口頭試問		授業態度		出席状況															
授業計画																			
回数	講義内容			教授・学習方法		担当講師													
1	1. 病院の役割と機能 2. 国立病院機構が担う医療 1) 国立病院機構の使命（ミッション） (1) 幅広い医療 (2) 地域医療構想の推進による「地域完結型医療」の実践 (3) 臨床研究と教育研修のより一層の充実 2) 国立病院機構嬉野医療センターの医療			講義		病院長													

2	<p>3. 看護とマネジメント</p> <p>4. 看護サービスのマネジメント</p> <p>1) 組織として看護サービスをマネジメント</p> <p>2) 組織目標達成のマネジメント</p> <p>(1) 理念の形成と浸透</p> <p>(2) 看護の組織化</p>	講義	看護部長
3	<p>5. 組織とマネジメント</p> <p>1) 組織構造と組織原則</p> <p>2) マネジメントの基本</p> <p>6. 国立病院機構が担う医療と看護</p> <p>1) 国立病院機構の看護の機能と役割</p> <p>2) 国立病院機構嬉野医療センターの看護理念</p>	講義	看護部長
4	<p>7. 看護サービス提供の場と看護の実際</p> <p>1) 看護サービス提供の実際</p> <p>事例紹介：織田病院（佐賀県南西部）</p>	講義	看護管理者
5	<p>8. 看護ケアのマネジメント</p> <p>1) 看護ケアマネジメントと看護職の機能</p> <p>2) 患者の権利の尊重</p> <p>3) 安全管理</p>	講義	副看護部長
6	<p>9. 看護サービス提供のしくみづくり</p> <p>1) 看護単位の機能と特徴</p> <p>2) 看護ケア提供システム</p> <p>10. 看護の質の保障</p> <p>1) サービスの評価</p> <p>(1) 評価の視点（構造・過程・結果）</p> <p>2) 医療におけるサービスの質の評価</p> <p>3) 医療機能の評価</p>	講義	副看護部長
7	<p>11. 看護業務の実践（日常業務のマネジメント）</p> <p>1) 看護業務</p> <p>2) 看護基準と看護手順</p> <p>3) 情報の活用</p> <p>4) 日常業務の組み立て方、優先順位の決定</p>	講義	副看護部長
8	<p>12. 施設・設備環境のマネジメント</p> <p>13. 物品のマネジメント</p>	講義	副看護部長
9	<p>14. チーム医療</p> <p>1) チーム医療に必要な機能</p> <p>2) 看護専門職の責任と役割</p> <p>3) 他職種との連携・協働</p>	講義	副看護部長

10	15. 人的資源のマネジメント 1) 採用・配置 2) 労働環境の整備	講義	副看護部長
11	15. 人材資源のマネジメント 3) キャリアディベロップメント (1) 新人教育・研修 (2) 現任教育・研修 4) 人材フローのマネジメント (1) インフロー (2) 内部フロー (3) アウトフロー 5) 継続教育 (卒後教育・現任教育)	講義	教育担当師長
12	15. 人材資源のマネジメント 6) 看護職の養成制度 (看護基礎教育) 7) 専門看護師・認定看護師・認定看護管理者制度 特定行為研修 8) 看護職の専門性とキャリアマネジメント	講義	教育主事
13	16. 臨床における看護研究の意義と責務 1) 看護の発展と看護研究の意義 2) 看護研究に関する学会および学術集会	講義	教員
14	16. 臨床における看護研究の意義と責務 3) 臨床における看護研究の動向	講義・演習	教員
15	16. 臨床における看護研究の意義と責務 4) 学会・学術集会の参加または学内発表会の企画・運営	講義・演習	教員
	終講試験	試験 (評価)	単位認定者 教育主事

分野	専門分野 看護の統合と実践	科目名 単位（時間）	医療安全 1 単位（30 時間）	授業 形態	講義・ 演習	開講 時期	2 年 前期
講師名	中島 恵 嬉野医療センター 医療安全管理係長						
所属	久原 佳身 嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験:看護師 14 年						
授業概要	医療技術の発達や看護の対象者の多様化、医療事故に対する社会の意識の向上により、「安全な医療の提供」が求められている。医療安全は「医療の質の保証」であり「医療の質の管理」そのものである。医療安全の確保には、個々の医療従事者と医療システム双方の安全強化が欠かせない。そのため、基礎看護学の医療・療養環境を支える技術で学習した安全の概念をふまえて、医療安全管理の実際について学ぶ。						
科目目標	1. 看護における医療安全の推進と医療安全管理について理解できる 2. 医療安全管理を行う上で必要な基礎的知識を理解できる						
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践〔2〕 医療安全 医学書院						
参考文献	1. 医療安全ワークブック第3版 医学書院 2. 医療事故第2版 看護の方と倫理の視点から 医学書院 3. 医療安全ことはじめ 医学書院 4. 写真でわかる看護安全管理 事故・インシデントの背景要因の分析と対策 インターメディア 5. 学生のためのヒヤリハットに学ぶ看護技術 医学書院						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記試験	○	レポート	○	技術試験		
	口頭試問		授業態度	○	出席状況		
授業計画							
回数	講義内容			教授・学習方法		担当講師	
1	1. 看護業務と医療事故の現状			講義		中島 恵	
2	2. 医療安全対策の変遷			講義		中島 恵	
3	3. 組織における医療安全対策			講義		中島 恵	
4	4. 病院組織における医療事故に対する安全対策 1) 事故やヒヤリハット報告によるリスクの把握 - 分析 - 対策体制の確立 2) 事故やヒヤリハット事例の分析 3) リスクへの対応 4) システムとしての事故防止			講義・演習		中島 恵	
5	5. 医療安全対策の国内外の潮流 1) わが国の医療安全対策の潮流 2) 国外の医療安全対策の潮流と国際的連携			講義		中島 恵	
6	6. 看護事故防止の考え方 1) 患者側要因と医療者側要因の2軸から見た看護事故			講義		久原 佳身	

7	6. 看護事故防止の考え方 1) 患者側要因と医療者側要因の2軸から見た看護事故 (1) 間違いによる事故を防ぐ3ステップ	講義・演習	久原 佳身
8	6. 看護事故防止の考え方 1) 患者側要因と医療者側要因の2軸から見た看護事故 (2) 危険の予測（評価）に基づく事故防止の2ステップ	講義・演習	久原 佳身
9	7. 看護業務と事故防止 1) 与薬に対する医療安全 (1) 注射業務と事故防止	講義・演習	久原 佳身
10	7. 看護業務と事故防止 1) 与薬に対する医療安全 (2) 輸血業務と事故防止	講義・演習	久原 佳身
11	7. 看護業務と事故防止 1) 与薬に対する医療安全 (3) 内服与薬業務における危険と要因	講義・演習	久原 佳身
12	7. 看護業務と事故防止 2) チューブ類挿入中の医療安全 (1) 経管栄養業務と事故防止	講義・演習	久原 佳身
13	7. 看護業務と事故防止 2) チューブ類挿入中の医療安全 (2) チューブ管理と事故防止	講義・演習	久原 佳身
14	7. 看護業務と事故防止 3) 療養上の世話における事故発生要因と事故防止の視点 (1) 転倒・転落防止 (2) 誤嚥・異食 (3) 熱傷	講義・演習	久原 佳身
15	7. 看護業務と事故防止 4) 事故防止に活かす危険予知能力	講義・演習	久原 佳身
	終講試験	試験（評価）	単位認定者 久原 佳身

分野	専門分野 看護の統合と実践	科目名 単位(時間)	広域看護方法論 1単位(30時間)	授業 形態	講義・ 演習	開講 時期	3年 前期												
講師名 所属	院外講師 長崎大学 熱帯医学グローバルヘルス研究科 教授 院内講師 嬉野医療センター 救命救急科医師 院内講師 嬉野医療センター 看護師																		
授業概要	<p>グローバル化が進んだ現代の社会においては、わが国だけでなく地球上のあらゆる人々の健康を考える必要がある。世界ではどのような問題が起こっていて、人々は何に苦しんでいるのか、諸外国における保健・医療・福祉の課題を理解し、それに対して看護師は何ができるのかを国際看護の内容で学ぶ。</p> <p>災害看護では、近年、地震や洪水、土砂災害等の災害の頻度や規模が拡大し、被害も増大している。このような状況の中で、災害の備えの重要性や被災傷病者の医療・看護への期待は大きくなっている。そのため、災害の基礎的知識と災害看護を実践できる能力を養えるよう学ぶ。</p>																		
科目目標	1. 国際的な健康問題や看護の国際協力の組織・仕組みについて理解できる 2. 国際看護の実際について知り、諸外国との協力や看護師としての役割を考えることができる 3. 災害医療の基礎的知識を理解できる 4. 災害各期に応じた看護を理解できる 5. 今後起こりうる災害を理解し、災害の備えを考えることができる																		
テキスト	1. 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学 医学書院																		
参考文献	1. 災害現場でのトリアージと応急処置 日本看護協会出版会 2. 災害看護 心得ておきたい基本的な知識 南山堂 3. いのちとこころを救う災害看護 災害サイクルからみた各期の対応 学研メディカル秀潤社 4. 佐賀県ホームページ <a href="https://www.pref.saga.lg.jp">https://www.pref.saga.lg.jp</a>																		
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 25%;">筆記試験</td> <td style="width: 15%;">○</td> <td style="width: 25%;">レポート</td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 20%;">技術試験</td> <td style="width: 10%;"></td> </tr> <tr> <td>口頭試問</td> <td></td> <td>授業態度</td> <td></td> <td>出席状況</td> <td></td> </tr> </table>							筆記試験	○	レポート		技術試験		口頭試問		授業態度		出席状況	
筆記試験	○	レポート		技術試験															
口頭試問		授業態度		出席状況															
授業計画																			
回数	講義内容			教授・学習方法		担当講師													
1	1. 国際看護の概念			講義		院外講師													
2	2. グローバルヘルス			演習 グループワーク															
3	3. 国際協力のしくみ			講義															
4	4. 文化を考慮した看護			講義															
5	5. 開発協力と看護			講義															
6	6. 国際救援と看護			講義															

7	7. これからの国際協力の課題	演習 グループワーク	
8	8. 災害医療の基礎知識 1) 災害の種類と健康被害 2) 災害医療の特徴 3) 災害対応にかかわる職種間・組織間連携	講義・演習	院内講師 救命救急科医師
9	9. 災害看護の基礎知識 1) 災害看護の役割 2) 災害看護の特徴と看護活動	講義	
10	10. 災害サイクルに応じた災害看護 1) 急性期・亜急性期	講義	
11	10. 災害サイクルに応じた災害看護 2) 慢性期・復興期	講義	
12	11. 被災者の特性に応じた看護 1) 子ども 2) 妊産婦 3) 高齢者	講義・演習 グループワーク	
13	11. 被災者の特性に応じた看護 4) 障害者 5) 慢性疾患患者 6) 在留外国人	講義・演習 グループワーク	院内講師 看護師
14	12. 災害とこころのケア	講義・演習 グループワーク	
15	13. 地域における災害と備え	講義・演習 グループワーク	
	終講試験	試験（評価）	単位認定者 院内講師

分野	専門分野 看護の統合と実践	科目名 単位（時間）	看護総合技術 1単位（30時間）	授業 形態	講義・ 演習	開講 時期	3年 前期
講師名 所属	教員 嬉野医療センター附属看護学校 教員 院外講師 久留米工業大学工学部 教授						
授業概要	基礎分野から専門分野まで学んだ知識・技術を統合し、治療処置や生活の援助を必要とする対象の援助を考え実践することを学ぶ。臨床判断を行うための基礎的能力を養うために専門基礎分野や基礎看護学で学んだ内容をもとに看護実践を段階的に学ぶ。自己の看護実践能力の到達状況と課題、今後の展望を明確にする。看護実践上の課題や問題点について1年次科目「人間工学」で学んだ力学的な考察をすることによって、看護作業の効率化について探求する。						
科目目標	1. 既習の知識・技術を統合し、対象に応じた援助を考え実践できる 2. 自己の看護実践能力の到達状況を評価し、課題と今後の展望を明確にできる 3. 看護実践上の課題や問題点を学際的考察により、看護の効率性・経済性について検討する						
テキスト	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践〔1〕 看護管理 医学書院						
参考文献	基礎人間工学, 東京電機大学出版局（人間工学テキスト）その都度講師より提示する						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記試験	○	レポート		技術試験		
	口頭試問		授業態度		出席状況		
授業計画							
回数	講義内容			教授・学習方法	担当講師		
1	1. 臨床場面で遭遇する看護の実践 1) 多重課題に対する実践 (1) 優先順位の考え方 (2) タイムマネジメントと行動計画立案の視点			講義・演習	教員		
2	2) 複数の患者に対する看護の実践 (1) 各対象の状況に応じた看護			演習	教員		
3	2) 複数の患者に対する看護の実践 (2) 優先順位 (3) タイムスケジュール			演習	教員		
4	2) 複数の患者に対する看護の実践 (4) 援助の実施と結果			演習	教員		
5	2) 複数の患者に対する看護の実践 (4) 援助の実施と結果			演習	教員		
6	2) 複数の患者に対する看護の実践 (5) 評価・修正			演習	教員		
7	3) 臨床で遭遇する診療の補助 (1) 対象の病態の変化や疾患を包括的にアセスメントする			演習	教員		

8	3) 臨床で遭遇する診療の補助 (2) 対象に行われている治療の理解	演習	教員
9	3) 臨床で遭遇する診療の補助 (3) 安全安楽な診療の補助計画	演習	教員
10	3) 臨床で遭遇する診療の補助 (4) 安全安楽な診療の補助の実施	演習	教員
11	3) 臨床で遭遇する診療の補助 (4) 安全安楽な診療の補助の実施	演習	教員
12	3) 臨床で遭遇する診療の補助 (5) 評価・修正	演習	教員
13	2. 看護実践上の課題と展望 1) 看護実践上の課題の力学的考察 (看護作業の効率性・経済性)	講義・演習	院外講師
14	2. 看護実践上の課題と展望 2) 人間工学との共同による課題分析	講義・演習	院外講師
15	2. 看護実践上の課題と展望 3) 人間工学との共同による解決策の検討	講義・演習	院外講師
	終講試験	試験 (評価)	単位認定者 教員

分野	専門分野 看護の統合と実践	対象学年	3年	開講時期	後期
科目	統合実習	単位 (時間)	2単位 90時間		
講師名 所属	教員 嬉野医療センター附属看護学校 教員				

実習目的・目標：

統合実習は、これまで講義・演習・実習で学んだ知識と技術を統合し、3年間の集大成として到達すべき看護師像に近づけるための実習である。そのため実習では、看護のマネジメントについて学ぶ。これからの看護職は、専門職として自立・自律した存在を目指しており、1人ひとりの看護職が看護管理の方法を修得することが求められている。患者－看護師関係で、患者に提供するケアをマネジメントすること、そして患者に提供するケアを組織的にマネジメントする看護サービスをマネジメントする、この2つのマネジメントを中心に実習をする。

看護ケアのマネジメントは、複数の患者を受け持ち、日常の看護業務を実施できるよう優先順位を考慮したタイムスケジュールを考えていく。またその患者が必要としている他職種・多職種による支援も視野に入れながら考えていくことができるようにチーム医療に必要な知識を学ぶ。

看護サービスのマネジメントは看護ケアの提供システムを理解し、各勤務帯の状況と持続性を持った看護実践の実際を理解する。また組織における看護サービスのマネジメントとして、医療職種の業務の範囲を知り、チーム間の連携・協働の実際を学ぶ。また人材のマネジメント、施設・設備のマネジメント、物品のマネジメント、情報のマネジメントについて理解する。

臨地実習の概要：

複数の受け持ち患者を通して看護ケアのマネジメントについて学ぶ。患者に提供されるケアは、看護職が提供するケアだけに限らず、医師、医療関係職種や患者の療養生活にかかわるすべての人々によって提供されるものであることを、実習を通して学ぶ。

組織における看護サービスのマネジメントに対して、医療職種それぞれの役割を見学し、チーム医療をしていくうえでの連携・協働について学ぶ。また病棟管理者である看護師長の話聞き、実際に行動を共にすることで看護サービスのマネジメントを学ぶ。

実習目標	実習内容
1) 複数の患者の看護ケアのマネジメントをしながら患者の状況に応じた看護が実践できる。	(1) 複数の受け持ち患者の目標達成に向けた看護ケアの提供 (2) 患者が安全に療養生活を送れるように適切な医療安全のマネジメント (3) 複数の患者の目標が達成できるように日常業務のマネジメント (4) 倫理的な判断による看護ケアの実践
2) 各勤務帯の状況と継続をもった看護実践を理解することができる。	(1) 日勤帯におけるチーム内での継続看護 (2) 夜間帯における継続看護 (3) 部署間における継続看護 (4) 医療機関と施設・在宅との継続看護

実習目標	実習内容
3) 患者に必要なケアを提供するためのチーム医療を理解することができる。	(1) チーム医療における他・多職種の役割の理解 (2) チーム医療における他・多職種との連携・協働の理解
4) 組織における看護サービスのマネジメントを理解することができる。	(1) 病棟における看護サービスのマネジメントの実際の理解

実習計画

1. 実習目標および実習内容、実習施設

実習施設

嬉野医療センター 4 東病棟 5 東病棟 6 東病棟 6 西病棟 7 東病棟 7 西病棟 8 東病棟

詳細は、実習要項参照

履修条件

学則細則第3章 第12条 2項

専門分野の授業科目について単位履修ができていない者は、学習の順序性から当該科目の実習を履修できないことがある。(詳細は履修規程や履修要項を参照)

参考文献

系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[1] 看護管理 医学書院 他

評価方法

実習出席状況、実習内容、評価基準に基づき評価する。(実習要項・実習要領・評価基準参照)